



別府市で土産品を製造・販売する会社が食品ロスを減らすためにさまざまな工夫をしています。

① 「食品ロス」の意味を知っていますか？書いてみましょう。

.....

.....

.....

.....

② 土産品の会社が食品ロスを減らす取り組みをしているのはなぜでしょう？

.....

.....

.....

.....

③ どんな取り組みをしていますか？二つ書いてください。記事に出ている会社の関係者は何と話していますか？

.....

.....

④ 食品ロスを減らすため、あなたや家族に何ができるか考えてみよう。

.....

.....

別府の土産品製造・販売会社



大幅値下げ
支援物資に

食品ロス削減へ工夫

別府市で土産品を製造・販売する会社が食品ロスを減らすと懸命だ。新型コロナウイルスの影響で出荷先の宿泊施設や観光施設が休業し、大量の在庫が生じた。緊急事態宣言の解除後もすぐに観光客数の回復は見込めそうにない。賞味期限の迫る商品を大幅値下げしたり支援物資に充て、無駄にしないよう工夫を凝らしている。

JR別府駅構内の土産物店「ボン・マルセ」で製品を直売している日光食品(石垣東)。各施設から回収した商品を定価の半額などで販売している。「地獄をユーモラスに表現したポップを店頭で設置。地元だけでなく、市外から買いに来た人もいたという。森竹智則営業部長(43)は「4月の売り上げは前年の5%。大幅に値下げしても、地元の皆さんに購入していただければ普段は口にしない地元土産の味を知ってもらえる機会になる。親戚などにも送ってもらえたら」と期待を込める。南光物産(北鉄輪)も直売所で割引セールをしているほか、ネット販売に注力。看板商品の「ぎぼん漬」を含めた詰め合わせセットなどをアピールしている。原口智成社長(38)は「利益は出ないがロスは減らせる。応援の声も届き、ありがたい」と話す。宝物産(東荘園)は市を通じて高齢者施設などに無償で寄贈した。立命館アジア太平洋大の留学生にも提供し、困窮する学生支援に役立てている。河越祐人社長(54)は「商品には生産者の思いが詰まっている。困っている人々を支援する輪が広がれば」と意義を見いだしている。(山田直彦)